

# 計画

## のことなど

スケジュール

毎年年末になると、ほとんどの日本人が次の年の新しい手帳を準備します。中国人は、手帳を使う人は少ないです。“計画赶不上变化（計画は変化についていけない）”という言い方があるのですが、これが中国人の基本的な考え方といっていいでしょう。この世の万物は変化していますからね。計画を立てても、もし変化が生じれば計画にこだわらず現実の状況に合わせた対処が必要です。だから、中国人は予定の変更に対して、特に不都合を感じないのです。「臨機応変」、「適地適作」は日本よりずっと多くの場面で必要です。

日本人は一度計画したことは、基本的に変更しませんね。予定は手帳に記録して忘れないようにします。とても便利で賢明なやり方です。中国人は手帳を使うことが少ないと書きましたが、それは決して計画や予定を重視していない、気に留めていないのではありません。ちょっとした日常的なやり取りは、メモするのではなくて頭の中に記憶するのが処理の方法として習慣になっているんです（今はスマホを使う人も多くなりましたけど）。手帳の使用は日本人が緻密で計画的なことの表れで、中国人は状況が変化したときにすぐ対応できる態勢を取っているということでしょう。

こんな話があります。ある日本の高校と中国の高校とが姉妹校提携して、毎年お互いの学校を訪問していました。その時は、日本の学校が中国への訪問準備をしていたのですが、2ヶ月ほど前になって中国の学校から突然、「今年は学生食堂を修理するので、訪問を取り消してもらえないか」と連絡が入りました。日本側は、もう保護者向けの説明会は終わっているし、準備も例年の計画通りに進んでいるし、突然取り消しなんてどうすればいいんだ！と当初はかなり慌てました。しかしその後、落ち着きを取り戻した日本の学校が、中国側の状況変化に対して理解を示したうえで、中国訪問をどうにか実施したいとの気持ちを強調したため、何度かのやり取りを経て代替案が出され、問題は丸く収まりました。

この件について、中国人は信用を重視せず勝手な変更をされると思われるかもしれませんが、中国の学校側は「状況に変化があったのだから、計画にも変更が出て当然」と考えているのです。「相手方に取り消せるかどうか聞く」ということになるのですが、言い方ややり方が直接的なので、慣れていない日本人は対応に困ってしまうのでしょうか。これらのことを通して言えるのは、中国人と付き合うには不撓不屈の精神が必要だということですね。

さて、日本では予定表や計画表を書かされることが多いですが、中国の学生は先生から日記を書くことをしっかり指導されています。日本の学生より日記を書いている人、多いかもしれませんね。でも、子どもにとってはやはり面倒なんですよ。適当に書くと、今回のお話のようになってしまうかも。律儀に「突っ込む」先生もほほえましいですね。

2月30日 星期一 晴

今天一天都没有出太阳，真不好。

爸爸买回两条金鱼，养在水缸淹死<sup>1</sup>一条，我很伤心。

老师评语：我也很伤心，我活了这么大，2月还从来没有<sup>2</sup>

遇上过一个30号呢！

也从来没有见过不出太阳的晴天，更没见过会

淹死的金鱼。

1 淹死 yānsǐ：溺死する

2 从来没有 cónglái méiyǒu：これまで一度もない



2月30日 月曜日 晴れ

今日一日太陽が出ませんでした。やだな！

お父さんが金魚を二匹買ってきて、水そうで飼ったら一匹がおぼれて死んでしまいました。私はとても悲しかった。

先生のコメント……先生も悲しいです。今まで生きてきて、2月の30日なんて、聞いたことがありません。太陽が出ない晴天も、水そうでおぼれて死ぬ金魚も見たことがありません。